キッズファム
KidsFam 通信
No. 3
2018 年 6 月発行

発行：一般財団法人　重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）
Foundation for Severely Ill Children and Their Families

素敵な出会いと
みんなの輪が拡がって…

ご挨拶

一般財団法人
重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
理事長　喜谷 昌代

財団が設立されてちょうど２年が経ちました。最初の１年は慣れないことが多く、いろいろと試行錯誤の連続でしたが、この１年はようやく地に足がついてまいりました。多くの皆さまのご支援、ご協力に感謝申し上げます。

「もみじの家」も開設後２年以上が経過し、初めての利用者よりもリピートされる方が増えてまいりました。いつも気が休まらない生活をされているご家族の方々も、お子さまのケアをもみじの家のスタッフに任せて、いつもはできない事をしたり、ごきょうだいの行事に参加したり、自由な時間を過ごすことで、リフレッシュされていることと思います。また今年２月には皇后陛下がもみじの家をご訪問されて、ご利用中のお子さまに手を差し伸べられたり、ご家族や職員とお話しされたりしていました。

前回の通信以降の財団活動は多岐にわたりました。利用料支援やキッズファムカフェやファミリーフォトといった日常的な活動に加えて、写真展、懇親会、シンポジウム、研修会、主張コンクール等の活動を通じて、北は宇都宮、西は大阪と啓発・研修活動をしてまいりました。NHK 始めいろいろなメディアに取り上げられるようになってきましたし、若い方々にも知って頂けるようウェブサイトもリニューアルいたしました。また、私の住んでいるロンドンでクラシックのチャリティーコンサートをヘレンダグラスハウス（英国の子どもホスピス）と一緒に開催し、チャールズ皇太子夫人のカミラ様にもご列席頂きました。

これからも重い病気を持つ子どもと家族が安心して普通の生活が出来る社会になることを目指して、今後も活動を続けてまいりたいと思います。引き続き、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆財団の主なイベントご紹介

■すべての子どもを育む社会を目指して

ゲストパネリストに　野田聖子氏
サヘル・ローズ氏をお迎えして

３月１０日（土）、成城ホールにおいてシンポジウムを開催しました。小児科医である国立成育医療研究センター病院長、賀藤均氏、政治家であり医療的ケア児の母親である総務大臣、野田聖子氏、子どもの命や人権を守る活動をしているタレント･女優のサヘル･ローズ氏の３名と、コーディネーターとして元 NHK アナウンサーで“もみじの家”ハウスマネージャーの内多勝康氏にご登壇いただきました。

シンポジウムでは、医療的ケアを必要とする子どもと家族の日常や、人工呼吸器使用を理由に学校に行きたいのに行けず、学びの機会が奪われている状況、すべての子どもを等しく育むことを実践している幼稚園の様子を映像で紹介しました。登壇者はそれぞれの立場からご発言、意見交換を行いました。現在は医療の進歩で助けられる命が増えているにも係わらず対応できる仕組みが追いついていない状況であり、親の休息、きょうだいへの支援など家族全体を支える法的な問題解決が必要です。また、医療と教育の融合、責任の所在を追及する現状を乗り越える発想も必要です。さらに、医療的ケアが必要な子どもが“生まれてきてよかった”と思える一人ひとりが生きやすい社会について考え、一緒にアプローチしていきたい、と訴えました。

＊会場に来られた皆様と楽しいひと時♪

シンポジウムに先立つミニコンサートでは、東洋英和女学院中学部･高等部合唱部による美しい歌声をお聞きいただきました。

シンポジウムの様子は４月７日に、NHK Ｅテレ「TV シンポジウム」で放映されました。

＊世田谷区長
保坂展人氏も会場に
駆けつけられて

皆さまからのご意見・ご感想（アンケートより）

勉強になった、現実を知ることができた、知ることの大切さを実感した	124 名
登壇者の人選がよい	57 名
再開催、他地区での開催を希望する	52 名
医療福祉制度の改革･行政への働きかけ･厚生労働省と文部科学省の連携が必要である	47 名
協力したい、自分にできることを行う、支援したい、周囲に広めていく、役立ちたい	25 名
映像がよかった（現状がよく伝わった、感動した、訴える力があった）	21 名
ミニコンサートがよかった（癒された、心に響いた、心が和んだ、楽しかった）	18 名

■医療的ケア児と家族の主張コンクール

「未来の夢と希望を発信しよう」という副題で医療的ケア児とその家族が日々の想いを発表する主張コンクールが１月13日にラゾーナ川崎プラザで開催されました。23通の応募の中から、事前審査で入賞した10組が発表を行いました。コンクールの模様はNHKで放送され、朝日新聞など新聞各紙に記事が掲載されました。入賞された発表のうち公開を承諾いただいた8組の発表はKidsFam財団のウェブサイトでご覧いただけます。

グランプリ賞　「医療的ケアとぼくの想い」加藤空さん
準グランプリ賞　「あなたがくれたもの」小山陽子さん
審査員特別賞　「学校にいけないのはなぜ？」
山田美樹さん・萌々華さん

■親子とおもちゃの選び方・遊び方講習会

姫と王子の医ケアの会・キッズファム財団共催

５月13日、国立成育医療研究センター講堂において開催し、51名の方にご参加いただきました。講師の宮野亮先生（子どもと育ち総合研究所所長）より、「遊びとはそもそも楽しむもの」「できる経験の積み重ねで、できないことができるようになる」など基本的なことをご講義いただいた後、一人ひとりのお子さんに適したおもちゃと遊び方を教えていただきました。

■写真展

「生きる喜び～重い病気を持つ子どもと家族の日々～」

宇都宮大学
峰ヶ丘講堂にて

若い人たちに
医療的ケア児を
もっと知ってほしい！

10月31日～11月５日、国立大学法人宇都宮大学の峰ヶ丘講堂において、当財団及び宇都宮大学、認定NPO法人うりずんとの共催により写真展が開催されました。喜谷理事長も来場し、教職を目指す学生たちに自身の熱い思いを語りました。いきいきとした笑顔の家族写真とドキュメント映像をご覧になった450名超の来場者からは、自分に何が出来るかを考えたいとの感想が多く寄せられました。下野新聞、とちぎテレビのニュースにも取り上げられました。

■写真常設展「もみじ写真館」開催中

国立成育医療研究センター　ロビーにて

昨年夏からファミリーフォトプロジェクトを利用なさったご家族の写真を展示しています。

家族の方からは、うちの子を見て下さって嬉しい気持ちになった、ご覧になった方々からは、笑顔に励まされた、家族の愛・親の力を感じた、といった感想が寄せられて、財団一同の励みになっております。

■スペシャルキッズサポーターの集い in 大阪　2018

２月11日に大阪で「スペシャルキッズサポーターの集い」が開催されました。子どもたちに“まなび”“あそび”“であい”などの経験を提供する団体が集い、連携していくことを目的としています。講演会、ワークショップ、活動紹介（ポスターセッション）に参加し、スペシャルキッズへの関わりの重要さと多くの団体の活動を知る機会となりました。

※“スペシャルキッズ”とは
欧米で“重い病気や障害など広い意味で課題を抱える子ども”を指す言葉とし使われている。

或る日の
カフェ便り

皇后美智子さま　もみじの家　ご訪問

今年２月 16 日、皇后美智子さまがもみじの家をご訪問下さいました。皇后さまはかねてより重い病気や障害を持つ子どもたちにお心を寄せていらしたと伺っております。当日は報道関係の方達も来られて、いつも静かなもみじの家が人々でいっぱいになりました。

キッズファムカフェも、いつものようにオープンして皆様とお待ちしました。皇后さまは最初に、２階でケアを受けているお子さまたちを訪ねられました。それから１階を巡られたのちカフェにいらっしゃいました。

「カフェをしてくださっているのですね」「どれくらいの回数、開いているのですか」「何をお出ししているのですか」「皆さんに喜んでいただいていますか」とお尋ねになられ、最後に「ありがとう」を重ねておっしゃってくださいました。

そしてカフェにお集まりのご家族の皆様おひとりずつと、丁寧に優しくお言葉を交わされました。それは和やかな、感動に満ちた時間でした。皇后さまのご訪問は、もみじの家に関わるすべての人にとって何と大きな励ましでしょう。より広く多くの方々にもみじの家を知って頂くことにもなり、誠に有り難いことでした。

もみじの家が開設して間もなく始めたカフェも、もうじき２年が経過します。滞在されるお子さまのご家族やその面会

の方、そしてご利用を検討されているご家族などもみじの家の関係者に限定してご利用いただいています。

カフェにいらしたお母さまは、お手紙を書かれたりおしゃべりをされたり、お父さまは読書をされたりと思い思いの時間をお過ごしです。香り高いコーヒーも、一服ごとにお点てするお抹茶もご好評いただいています。カフェではのんびり休息の時間をお過ごし頂けたらと思います。今後もみなさまに喜んで頂けるカフェであり続けたいと願っております。

週に１度のカフェですが、もみじの家に来られたら、そしてカフェが開いていたら、是非ともお立ち寄りください！

（伊東洋子）

History of KIDANI〈2〉

―　生涯続くボランティアへの情熱　―

当財団理事長、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介いたします。２回目は昌代の奉仕精神について紹介します。

昌代がパリから帰国した 1964 年は東京オリンピックの年。コンパニオンには手当が出ましたが、パラリンピックには予算がつかず、お手伝いは無償でした。その時、聖心時代の二年先輩でいらっしゃる皇后美智子さま（現在の日本赤十字名誉総裁）から、「あなた赤十字で働いてみたらどう？」と紹介されたのが、恩師橋本裕子先生（当時、赤十字青少年課課長）との出会いでした。

事務所を訪ねると「あなたが本心からボランティアになりたいのなら、自分で培ってきたもの、自分の時間、エネルギーを、ケアする人のために喜んで提供できますか？」と聞かれ、「はい」と答えると、すぐに語学試験が始まり、青少年課で採用となりました。東京パラリンピックを機会に設立された赤十字語学奉仕団で橋本先生は「できるかできないかではない。やるかやらないか」をモットーに、たくさんの後継者を育てられました。昌代もその一人で「真っ暗なトンネルの先に見える、たった一つの明かりになれ」の奉仕精神を胸に刻み赤十字でのボランティア活動に従事しました。

＊赤十字語学奉仕団の仲間と恩師のお墓参り 2016 年１月

赤十字語学奉仕団では、盲学校や養護学校、障害者の働く工場で、英語などの語学を学んでもらうお手伝いや、国際セミナーの通訳、さまざまな書類や手紙の翻訳を行うなど、２年ほど精力的に活動しました。

赤十字はアンリ・デュナンによって「目の前で苦しんでいる負傷者を敵味方の区別なく救う」という思想のもと創設されました。このような赤十字思想と橋本先生の影響を受けた昌代の奉仕活動は 50 年以上続いています。

（中川佳子）

とびきりの笑顔は みんなを幸せに！

村林瑠美
（璃香ちゃんのお母さま）

「赤ちゃんは、重症の心臓病です。お腹の外で生きられるかわかりません。無事に産まれた場合でも、大きな手術が必要になります。」そう医師から告げられたのは、妊娠８ヶ月の頃。短い命かもしれない赤ちゃんの名前を急いで決めて、沢山声をかけました。それから出産までの毎日は、かすかな希望を一瞬で飲み込むような不安と葛藤の連続でした。

2014年８月、39週で娘の璃香（りか）は産声をあげ、皆で大喜び。NICU、GCUを経て、生後３ヶ月で先天性心疾患の根治術、２ヶ月後に在宅生活が始まりました。これで全て「普通」になると信じて。ところがその後、点頭てんかんを発症し、２歳の時にはモワット・ウィルソン症候群という遺伝子変異が由来の珍しい病気の診断がつきました。心臓以外にも、様々な合併症や重い知的障害、運動機能障害が見込まれています。

その現実は、不思議とすんなり受け入れられ、可愛い娘のありのままの姿を誇らしく認めようと改めて思わせてくれました。

振り返ると、家族の生活は働き方も含め制約が増えたことは事実です。３歳９ヶ月の現在、璃香は全介助で言葉もありません。医療ケアを含めたお世話は確かに大変ですが、２歳下の弟や音楽や手遊びが大好きで、とびきりの笑顔は周りを幸せにしてくれます。また、医療機関、訪問看護、療育施設、地域、仲間、家族など、璃香が与えてくれた新しい世界との出会いには感謝しかありません。その一つが、もみじの家です。初めての入所日、璃香は少し緊張しながらも、明るい光が差し込む部屋でお友達やスタッフの方々の輪の中に自然と入っていきました。退所日に迎えに行くと、満面の笑み。本人の気持ちのみならず、休息時間を頂き緩んだ私の表情も反映していたように思います。大好きな「第二の我が家」での様々な経験は、私たち家族の人生を豊かに彩ってくれるでしょう。もみじの家のような施設が各地に広がることを心から願っています。

もみじの家で楽しい時間を…

グレイアム・バート
（アレックス君のお父さま）

私たちの息子アレクサンダー（アレックス）は、「もみじの家」で同じような状況の子どもたちや家族と一緒に過ごし、素晴らしいスタッフに見守られて数日を過ごしました。

彼は、読み聞かせのようなグループ活動に参加したり、外のバルコニーやセンサリールームで楽しい時間を過ごしました。またキッズファム財団のカメラマンは素晴らしく彼が撮影した写真を私たちはとても気に入りました。

重い障害をもつ子どもの親として、私たちは彼の将来が心配ですが、専門的なスキルを持ちケアを熟知している人たちに囲まれた環境にいれることで、アレックスと私たちの将来が他の子どもたちと同じように幸せな時間に満ちたものになることを約束してくれます。

アレックスは話もできないし動くこともできないけれど、「もみじの家」では、彼が気持ち良くリラックスして満足している事を私たちは感じることができます。
これからも、キッズファム財団が取り組んでいる重い病気を持つ子どもと家族を支える活動や写真展などの啓発活動に期待しています。

平成 29 年度事業報告

1. 支援事業

（1）もみじの家等短期滞在施設の利用料支援 153 家族
（2）キッズファム・カフェ 51 回開催
（3）ファミリーフォトプロジェクト（旧記念日写真プロジェクト）62 家族
＊平成 29 年 11 月より名称変更

（4）家族への提供イベント
①ウー・ウェンクッキングサロンへの招待
② Bunkamura ザ・ミュージアム（株式会社東急文化村）の展覧会招待
③近隣レストランの割引券
（5）タオル無償提供
今年度 10 月より株式会社エランからの寄付より、“もみじの家”利用家族にタオルを無償提供
（6）理事長・ご家族との懇親会
11 月 15 日レストラン“つばさ”

2. 啓発事業

（1）講演会
「すべての子どもを育む社会を目指して～医療的ケアとともに生きる子どもと家族～」6 月 24 日（土）午後 1 時～ 4 時、成城ホール、参加者 291 名
（2）シンポジウム
「すべての子どもを育む社会を目指して～医療的ケアの必要な子どもと家族に私たちができること～」3 月 10 日（土）午後 1 時 30 分～ 4 時 40 分、成城ホール、参加者 275 名
（3）写真展
・聖心女子学院 5 月 29 日～ 6 月 2 日
・成城ホール 6 月 24 日
・国立成育医療研究センター 8 月 7 日～ 2 月 28 日、3 月 1 日～ 3 月 31 日
・砧中学校　10 月 10 日～ 14 日
・宇都宮大学 10 月 31 日～ 11 月 5 日
（4）映像資料
「医療的ケアの必要な子どもたち」講演会・写真展で上映
（5）キッズファム通信 No.2　10 月発行
啓発用資料「医療的ケア児を知ることから始めよう！」作成、
（6）ウェブサイトの更新

（7）その他
① TMC 商店会主催夏祭り参加　8 月 6 日（日）
②丸の内キッズジャンボリー 2017 資料展示　8 月 15 ～ 17 日　東京国際フォーラム

3. 研修事業

（1）小児在宅医療技術講習会
①第 1 回 8 月 19 日 、国立育医療研究センター講堂
②第 2 回 10 月 7 日、国立成育医療研究センター講堂
③第 3 回 12 月 9 日 AM、国立成育医療研究センター講堂
④第 4 回 12 月 9日PM、国立育成医療研究センター講堂
（2）在宅医療懇話会
12 月 16 日、国立成育医療研究センター講堂
（3）医療的ケア児と家族の主張コンクール～未来の夢と希望を発信しよう～
平成 30 年 1 月 13 日、ラゾーナ川崎プラザソル

4. 日本国内の同様施設との交流

（1）リラのいえ見学（横浜市、患者・家族のための滞在施設）7 月 27 日
（2）島田療育センター見学（多摩市、日本で最初の重症心身障がい施設）9 月 22 日
（3）うりずん訪問（宇都宮市、重症障がい児者レスパイトケア施設）10 月 3 日

5. 調査事業

（1）施設見学
①東京都立光明学園 5 月 16 日
②柿の実幼稚園　10 月 26 日
（2）研究会等参加
①スペシャルキッズサポーターの集い in 大阪 2018
2 月 11 日、宝塚大学大阪梅田キャンパス
②病児の遊びとおもちゃケア
3 月 4 日、国立成育医療研究センター講堂

平成 29 年度決算報告

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

（単位：円）

科　目	金　額	備　考
Ⅰ．経常収益		
1. 受取会費	1,861,000	ﾊﾟｰﾄﾅｰ会員（ 10,000 × 119 口） ｻﾎﾟｰﾀｰ会員（ 3,000 × 157 口） 法人会員 （100,000 × 2 口）
2. 受取補助金等	145,705	
3. 受取寄付金	13,912,845	
4. 雑収益	176,646	
経常収益計	**16,096,196**	
Ⅱ．経常費用		
1. 事業費	16,182,200	
2. 管理費	3,356,285	
経常費用計	**19,538,485**	
経常外費用計	**299,450**	
当期一般正味財産増減額	**△ 3,741,739**	
当期指定正味財産増減額	**△ 4,023,559**	
正味財産期首残高	**25,701,693**	
正味財産期末残高	**17,936,395**	

平成 30 年度事業計画

1．支援事業

（1）もみじの家等短期滞在施設利用料の支援
（2）もみじの家等短期滞在施設利用家族への家族写真プレゼント
（3）もみじの家利用家族へのタオル無償提供
（4）キッズファム・カフェの実施
（5）イベント等への招待
①クッキングサロン　②美術館　③レストラン・カフェ
（6）必要な支援の把握と新規支援事業計画の検討

2．啓発事業

（1）講演会の開催…10 月 14 日、成城ホール
（2）写真展の開催…3 回
①写真展開催箇所の開拓
②写真パネルの作成と管理
（3）財団の活動紹介
①通信の発行 2 回 / 年度（6 月 ·12 月）
②ウェブサイトの活用

3．研修事業

（1）国立成育医療研究センターへの委託研修会
①医療的ケア児と家族のケアを担当する人たちを対象とした研修会
②一般の方を対象とした研修会
（2）財団主催の研修会
①家族支援研修会（“姫と王子の医ケアの会”との共催）…5 月 13 日
②財団メンバーを対象とした研修会
（3）研修事業助成のあり方に関する検討

4．連携事業

重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業 · 活動を行っている施設 · 団体との連携
（1）施設見学
（2）学会、交流イベント等への参加

5．募金活動

（1）個人だけでなく企業や団体への働きかけ
（2）ウェブサイトの活用

6．公益法人化に向けた準備、検討

（1）名称及びロゴマークの商標登録
（2）公益法人に関する情報収集
（3）公益法人化に向けた財団運営に関する再検討及び整備

講演会のお知らせ

•10 月 14 日（日）成城ホールにて
詳細は財団ウェブサイトにてお知らせします。

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

H29 ～ 10.1 ～ H30.3.31　　敬称略

朝野 春美 / 天野 令子 / 阿良山 理恵 / 有吉 優子 / 安藤 美鈴 / 安藤 和代 / 飯澤 寛美 / 五十子 敬子 / 池上 典子 / 石井 恒樹 / 石川 わかな / 石田 朋靖 / 石橋 広隆 / 石原 景子 / 石原 晶世 / 石原 道子 / 市橋 良子 / 伊藤 啓子 / 伊藤 啓子 / 伊藤 雅彦 / 伊藤 美子 / 岩田 啓子 / 植田 宣子 / 上野 博 · 悦子 / 宇多小路 利子 / 江端 貴子 / 大漉 憲一 / 大川 周二 / 大元 彩織 / 岡 千代 / 岡部 和子 / 小川 典子 / 奥芝 彰子 / 奥野 英子 / 尾島 伶子 / オチ カズミ / 落合 晴子 / 乙幡 貴美子 / 角館 勝子 / 笠井 真紀 / 片山 成美 / 勝川 恵子 / 桂川 正克 / 加藤 信子 / 加藤 弘章 / 加藤 睦子 / 金澤 開作 / 金子 立 / 蒲谷 ひろみ / 鎌田 千津子 / 鎌田 広将 / 亀山 厚也 / 川瀬 英子 / 河村 ちひろ / 河村 政隆 · 佑子 / 菊地 博信 / キシイ トモミ / 北村 路子 / 鬼頭 とし子 / 木野 雅之 / 吉備 斐子 / 木村 圭子 / 工藤 直子 / 工藤 加寿子 / 黒川 晴美 / 黒澤 弘子 / 小鍛冶 昭子 / 小坂 一郎 / 小谷 ゆう子 / 小谷 ゆみ子 / 児玉 桂子 / 児玉 美喜子 / 狐塚 七重 / 後藤 佐代子 / 後藤 祥子 / 小林 京子 / 小林 真琴 / 小林 正幸 / 小峰 万木子 / 小宮山 雅子 / 今野 聡美 / 齊藤 尚美 / 佐鹿 博信 · 孝子 / 坂口 明子 / 佐藤 志保子 / 佐藤 隆之 / 佐藤マリ子 / 柴田　敏子 / 柴田 ひさ / 島崎 公子 / 嶋田 せつ子 / 島谷 美成 / 清水 佳代子 / 下田 あい子 / 白川 世紀子 / 新藤 由喜子 / 菅谷 広子 / 杉浦 花音 / 杉村 和子 / 鈴木 一枝 / 鈴木 富佐江 / 鈴木 佑子 / 鈴木 祐子 / 鈴木 由紀子 / 鈴木 良平 / 住田 敞子 / 髙草木 多佳子 / タカシマ ヨウコ / 高田 尚子 / 高梨 絹代 / 高橋 信雄 / 高橋 征幸 / 高橋 里江 / 高山 香奈江 / 滝口 結菜 / 竹内 幸男 / 竹田 啓介 / 竹田 咲南 / 太刀川 亜希子 / 田中 佳子 / 玉井 祥子 / 辻 邦 / 土田 和子 / 土屋 幸子 / 土屋 七々重 / 寺倉 紀世子 / 土井 啓子 / 富和 清隆 / 中尾 あぐり / 中島 典子 / 中島 秀樹 / 中島 豊 / 中島 洋子 / 中島 陽子 / 中野 喜久子 / 中野 由美子 / 長場 直子 / 永峰 涼子 / 西田 大介 / 西村 恭子 / 野村 紀子 / 野村 美佐子 / バーランド 和代 / 長谷川 節子 / 英 順子 / 原田 純子 / 廣田 ゆき江 / 日高 淑子 / 秀島 茂里 / 平馬 慶子 / ファリーダ ラーマン / 福神 邦雄 / 藤井 克徳 / 藤井 宏栄 / 藤井 みすず / フライ トヨコ / 古市 理代 / 別宮 節江 / 堀内 静夫 / 堀江 ひろ子 / 前田 和恵 / 前谷 千恵子 / 眞篠 一栄 / 町田 幸子 / 松井 陽 / 松坂 ヒロシ / 松野 邦子 / 松村 礼子 / 松本 恭一 / 三浦 文子 / 三浦 正充 / 三本 明子 / 宮武 倭子 / 宮野 亮 / 村上 紀子 / 村木 厚子 / 馬上 英実 / 守隨 邦子 / 森 明子 / 森部 加奈子 / 森部 由紀 / 森山 邦代 / 諸藤 慶子 / 八住 美奈子 / 柳井 三来子 / 柳澤 正義 / 矢花 佐夜子 / 山下 経子 / 山田 久美子 / 山中 裕子 / 山根 浩佳 / 山羽 啓子 / 山本 貴美子 / 山本 初子 / 山元 悠生 / 山本 陽子 / 湯川 れい子 / ヨコカワ シゲミ / 横田 美奈子 / 吉井 京子 / 古井 泰子 / 吉住 喬子 / 吉田 徳三 / 吉田 三恵子 / 吉田 陽子 / 若井 亜紀子 / 鷺池 聰子 / 渡辺 泰子 /AK/DK/FS/FS/MK/MT/RI/SK/TA/YH/YO

※その他匿名を希望された方(13 名)からもご寄付をいただいております。

ご寄付いただいた企業・団体

医療法人社団聖櫻会津田整形外科 / 学校法人柿の実幼稚園 / 株式会社エラン / 株式会社エスコンリビングサービス Café Apartment 183/ 株式会社東急文化村　ザ・ミュージアム / 株式会社ロッテ / 公益社団法人 JAIFA 東京協会 / 公益社団法人程ヶ谷基金 / 社会医療法人童仁会池田病院 / 首都開発株式会社 / 聖心会三光町修道院 / 聖心女子学院もゆる会 / 東京ウィメンズクラブ / 東京アーバンコンサルティング株式会社 / 日本製薬団体連合会 / ノエルの会 / 花のアトリエ youyou/ 大和郷幼稚園ＰＴＡ / ヤマト株式会社

＊日本製薬団体連合会 68 社……ウェブサイトをご覧ください
＊募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください

会員募集と ご寄付のお願い

★財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。

★皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。

★会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等のご案内を差し上げます。

★財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆年会費（4月1日から翌年3月31日）

①法人会員	1口	100,000円
②パートナー会員	1口	10,000円
③サポーター会員	1口	3,000円

＊1口からお受けいたします。

◆ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

（キッズファム財団）

1.郵便振替
00140-0-420461
2.三菱UFJ銀行
成城支店
普通 0233800
3.クレジット決済 ⟶

おかげさまで…みなさまに愛される 街角の募金箱

財団設立当初から募金箱設置にご協力いただいている世田谷区砧3丁目の「美容室TAMS 薔薇」様をご紹介します。

近くに国立成育医療研究センターや友愛十字会各施設等があるためKidsFam財団の活動にご理解のあるお客様方が多く、熱心に募金してくださるそうです。お客様方が募金されている姿を見て、店長小野寺様のお孫さん達も自らお小遣いを募金するようになられたとのこと。小野寺様ご家族の皆様方はじめご来店のお客様方の心温まるご支援に心より感謝申し上げます。財団の有意義な活動に大切に使わせていただきます。（降籏啓子）

編集後記

Kidsfam 通信 No.3 をお届けします。前号以降、お蔭様で沢山の活動が行われたので、紙面の題材に迷うほどとなりました。これも偏に皆様のご支援・ご協力の賜物だと感謝いたしております。

今回の号では感謝の気持ちを込めて、ご寄付頂きました皆様のお名前を掲載させて頂きました。

2017年10月以前にご寄付を頂きました皆様にも、この場をお借りし厚くお礼申し上げます。又原稿やお写真をお寄せ頂きました皆様にも、深謝いたします。

これからも皆様のリクエストにお応えしながら愛されるより良い通信を目指します。

（担当　菊地・池永・中川）

KidsFam
Foundation for Severely Ill children and Their Families
一般財団法人「重い病気を持つ子どもと家族を支える財団」
〒157-8535
東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター内
TEL 03-5494-1230　Eメール zaidan@kidsfam.or.jp
URL：https://kidsfam.or.jp　「キッズファム財団」で検索ください